

国宝　十一面観音菩薩立像
奈良時代・8世紀　奈良・聖林寺蔵

プレスリリース

特別展
国宝 聖林寺
十一面観音

三輪山信仰のみほとけ

Sacred Treasures from Ancient Nara:
The Eleven-Headed Kannon of Shōrinji

6月16日(火)～8月31日(月)

TNM 東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM



国宝　地蔵菩薩立像
平安時代・9世紀　奈良・法隆寺蔵



日光菩薩立像（部分）
平安時代・10〜11世紀　奈良・正暦寺蔵



三輪山
奈良盆地の東南部にある神が宿る美しい円錐形の山



山ノ神遺跡出土品
奈良県桜井市山ノ神遺跡出土
古墳時代・5〜6世紀　東京国立博物館蔵

三輪山信仰

日本人は古来自然に畏敬の念を抱き、神が宿る依り代として、山や滝、岩、樹木などを信仰しました。三輪山はその代表的な例で、大神神社には神をまつる本殿はなく、三輪山を御神体として礼拝します。

『古事記』の神話に、大物主大神が大国主神に、国造りに協力するから「吾をば倭の青垣、東の山の上にいつきまつれ」（私を、大和を囲む青い垣根のように連なる山々の東の山にまつりなさい）と望み、三輪山にまつられたと語られています。三輪山には人々が入ることができない禁足地があり、そこから古代の祭祀を物語る子持勾玉や、造酒に用いる器具の小さな土製模型が出土しており、古くからの信仰の存在を確認できます。

大神神社の由緒には、三輪山の頂上の磐座（神の宿る場所）に大物主大神、中腹の磐座に大己貴神、麓の磐座には少彦名神が鎮まるとあります。三輪山を御神体とする大神神社拝殿とその奥の禁足地の間には結界として鳥居と瑞垣が設けられています。その鳥居は、一列に3つ組み合わせた独特の形式で「三ツ鳥居」といい、中央には扉が付けられています。拝殿がはじめてつくられたのは鎌倉時代のことで、現在の拝殿は寛文4年（1664）徳川家綱が再建したものです。国宝 聖林寺十一面観音菩薩立像をかつて安置していた大御輪寺は、大直禰子神社（若宮）となっています。

開催趣旨

仏教伝来以前の古い日本では、神は山、滝、岩や樹木等に宿ると信じられ、本殿などの建築や、神の像はつくらず、自然のままの依り代（よりしろ）を拝んでいました。その形が現在まで続いているのが三輪山を御神体とする大神神社（おおみわじんじゃ）です。その後、国家的に仏教を興隆した奈良時代には神仏関係の接近が見られ、神に密接にかかわる寺がつくられました。三輪山にも大神寺（鎌倉時代以降は大御輪寺）が造られ、仏像が安置されました。

幕末、新政府により神仏分離令※1が発せられると、廃仏毀釈※2の危機にさらされますが、大御輪寺の仏像は、同寺の住職や周辺の人々の手によって、近傍の寺院に移され、今日に至ります。

本展では、かつて大神寺にあった国宝 十一面観音菩薩立像（聖林寺蔵）、国宝 地蔵菩薩立像（法隆寺蔵）などの仏像と、仏教伝来以前の日本の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展示します。

国宝 十一面観音菩薩立像が奈良県から出るのは初めてのことです。その比類ない美しさをこの機会にぜひご覧ください。

※1：維新直後の明治政府の宗教政策のひとつで神道を仏教から独立させたこと
※2：神道国教化をめざして行われた一連の政策により神と仏を一緒にまつる状態を解消し仏教を廃し仏像などをこわすこと

会　　期　2020年6月16日（火）～8月31日（月）

会　　場　東京国立博物館　本館特別5室

開館時間　午前9時30分～午後5時　※入館は閉館の30分前まで
※金曜・土曜は午後9時まで開館
※7月26日～8月9日及び8月25日～31日の月曜～木曜、日曜は午後7時まで開館

休 館 日　月曜日（7月27日、8月3日・10日・31日は開館）、8月11日（火）

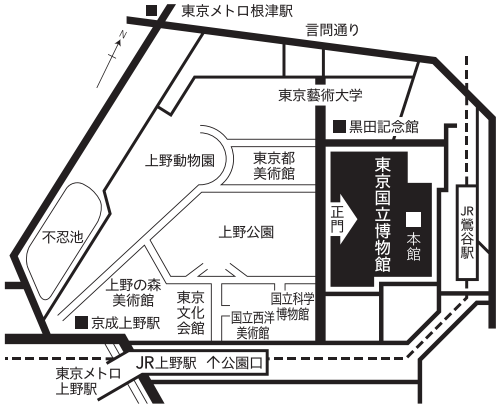
主　　催　東京国立博物館、読売新聞社、文化庁、日本芸術文化振興会

観覧料（税込）

	当日券	前売券
一般	1,200円	1,100円
大学生	700円	600円
高校生	400円	300円

※中学生以下無料
※前売券は2020年4月15日（水）から6月15日（月）までの間、東京国立博物館正門チケット売場（窓口、開館日のみ、閉館の30分前まで）、展覧会公式サイト、各種プレイガイドにて販売。
※障がい者とその介護者1名は無料（入館の際に障がい者手帳などをご提示ください）

※本展覧会は、2021年2月6日（土）～3月28日（日）に、奈良国立博物館に巡回予定です。



TNM 東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

〒110-8712　東京都台東区上野公園13−9　https://www.tnm.jp/

交　　通
JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、東京メトロ千代田線根津駅、
京成電鉄形成上野駅より徒歩15分

お問合せ
TEL 03-5777-8600

展覧会公式サイト
https://tsumugu.yomiuri.co.jp/shorinji2020

報道関係お問合せ
特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」
広報事務局（ユース・プラニング センター内）
TEL 03-5467-8638　FAX 03-3499-0958
E-mail：shorinji2020@ypcpr.com

JAPAN CULTURAL EXPO
2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

国宝
十一面観音菩薩立像

像高 209.1㎝
奈良時代・8世紀
木心乾漆造り・漆箔
奈良・聖林寺蔵

プロポーション

八頭身のすらりとした姿が魅力です。
しかし、胸はふくよかで腰はくびれ、
充実した厚みがあります。

日本彫刻の最高傑作、東京で初公開

天衣

両腕から台座に垂れる
天衣の曲線の美しさは
他に例をみません。

台座

台座は咲きほこる蓮の花をかたどっています。
花弁がひろがった
華やかな表現は、天平美術の特徴です。

頭上面

頭上には11の面がありましたが、
現在は仏面1、
菩薩面2、怒った面3、
牙を出した面2が残ります。

顔

目が吊り上がった
きびしい眼差しです。
口元がわずかに下がっているのも
その印象を強めます。

衣文

細い襞や太い襞、
ふくらみのあるもの鋭いもの。
柔らかな衣を写実的に表すために、
さまざまな襞がみられます。

手

力を抜いてゆったりとした
指の美しさに目をうばわれます。
左手も優雅に水瓶を
捧げ持ちます。